

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各学年の配当漢字の定着のため、大田区漢字検定を活用したり、構成や展開が明確な文章を書き、感想や意見を伝え合う学習を行ってきたりしたことで、全体として目標値を上回ることができた。
- ・漢字学習や文法に関する学習を通して、「書くこと」の領域は漢字の読み・書きともに校内全体として目標値を上回ることができた。

(2) 課題

- ・校内正答率は全体として目標値を上回っているが、正答率の個人差は大きく、前年度よりも平均正答率が低下した。全体の底上げと個々の児童に適した指導の改善を図る必要がある。
- ・指定された長さで文章を書いたり、文脈に合った適切な漢字を用いたりすること、また、叙述に基づいた心情理解ができるよう、個々の児童の実態に即した指導や支援が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

【◎…目標値を上回った(+5以上) ○…目標値と同程度(±0～+4.9) ▲…目標値を下回った】

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	○		
第5学年	◎	◎ (第4学年時)	
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値と同程度だった。ローマ字表記の読みの正答率が低かった。	目標値を上回った。文章を書く問題の正答率は目標値と同程度であったが、指定された長さで文章を書く問題の正答率が低く、文章を書く問題に関して無回答、誤答の割合が多い。	正答率は目標値と同程度であったが、自分の考えを明確にして書くような問題では誤答や無回答の割合が多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を上回っている。6年生では文脈に沿った漢字を適切に使うことの正答率が低く、5年生では漢字や文法に関する問題の誤答が多い。	正答率が目標値を上回っている。6年生では登場人物の心情を叙述を基に捉えることの正答率が低い。5年生では、明確に話を構成する問題での誤答が多い。	正答率が目標値を上回っているが、他の問題に比べ、誤答や無回答の割合が目立った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○漢字や平仮名の筆順や読み方、語彙がより定着するように、音読、漢字や平仮名、片仮名の学習に繰り返し取り組む時間を設けるようにする。	○事柄の順序に沿って簡単な文章の構成が考えられるように、下書きメモやワークシートを活用し、短い文章を書くことに慣れるようにする。	○めあてに沿って学習の内容を振り返る時間を授業の最後に設定することで、達成の状況を自己評価できるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○「書くって楽しいね」を使って、作文や文法についての基本的な内容の定着を図る。 ○ローマ字表記に慣れるため、タイピング練習を行い、ローマ字表記の仕方の定着を図る。	○文章を書くときには、自分で読み返したり相手に伝えたりすることで、文章の長さや目的に合ったものになっているか推敲させるようにする。	○児童にとって必然性があり、単元を通して一貫した課題設定をすることで、主体的に学習に取り組み、自分の考えを明確に表現できるようにさせる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○宿題や小テストなどで既習事項の定着を確かめるとともに、現学年での知識・技能の習得と定着を図る。 ○叙述に基づいた物語文や説明文の読み取りを通して、適切な漢字の使用や適切な文法を使用できるようにする。	○情景や感情を表現した叙述に注目させ、想像を広げたり、登場人物の心情を捉えたりできるようにする。 ○文章やスピーチ原稿の作成などの際に、読み合う時間を設けるなど、交流を通して伝わりやすい文章を考えられるようにする。	○最後まで課題に取り組むことができるよう、児童の興味・関心や疑問から課題を立て、相手意識や目的意識をもって学習が進められるようにする。